



# 2021年3月期 第2四半期決算報告

2020年11月5日

株式会社 

1. 経営状況報告

2. 2021年3月期 第2四半期決算報告

3. 2021年3月期 通期見通し

## 外部環境

コロナをはじめ、多くのグローバルリスクが存在し、世界経済回復は緩慢

## 当社業績

依然として厳しい経営環境にあるものの、前回見通しから改善傾向

## コロナ影響

今後も続く前提で顕在化した課題に取り組み、現地化・デジタル化を推進

## コスト改革

今後の事業規模を踏まえ、800億円以上（映像事業630億円+本社・調達費180億円）コスト削減

## 事業運営

映像事業は、持続的な収益モデルへの転換を加速

## 安定収益確保

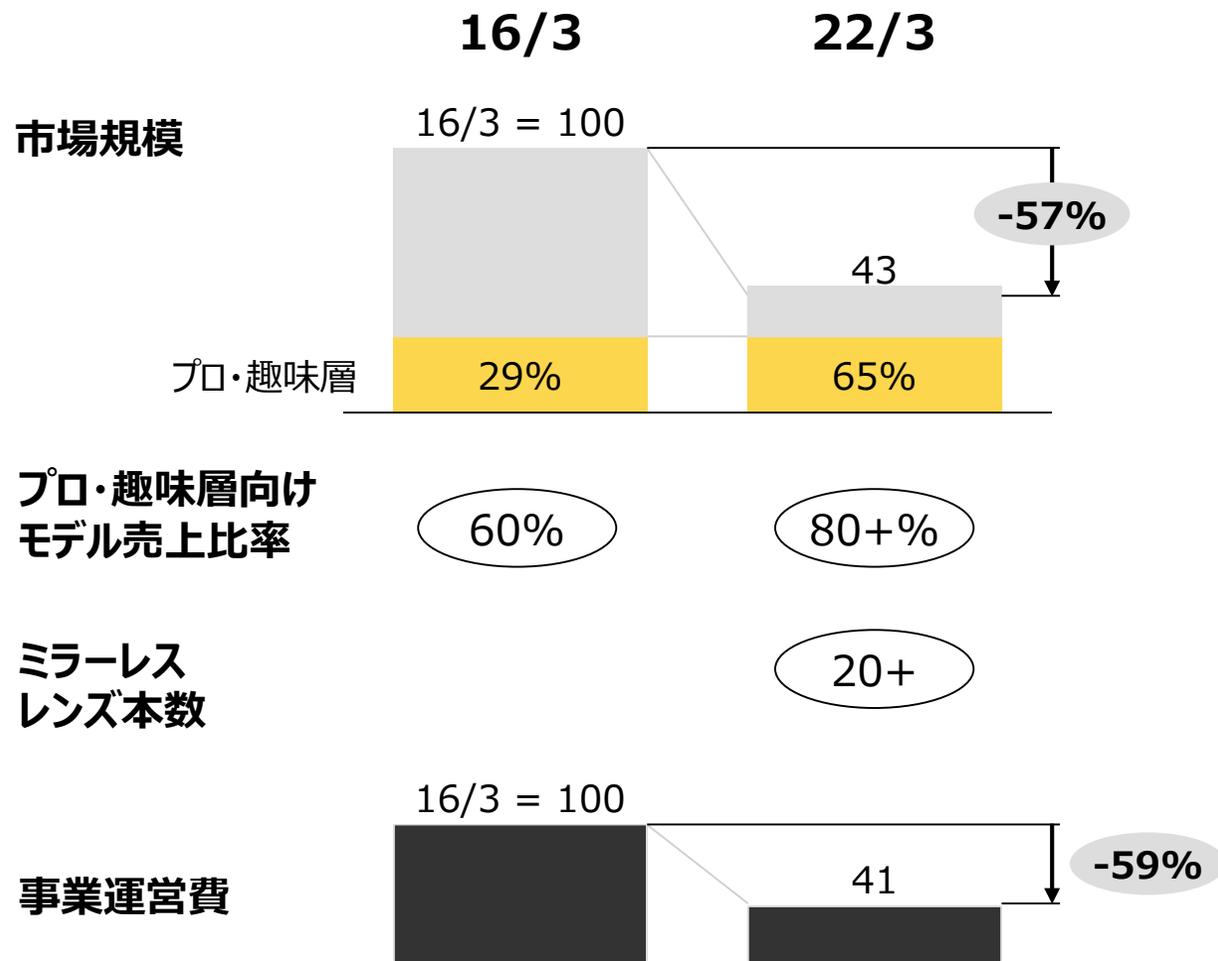
精機事業は、再来期以降の不確実性に備えて収益基盤を強化

## 成長投資

持続的成長に向けて、新たな柱を確立する為の戦略投資に資本配分優先

来期までに構造改革を完遂し、全ての事業セグメントで黒字化を実現

# 映像事業 – 持続可能なビジネスモデルへの転換



**市場環境の前提**  
 コロナ後もプロ・趣味層からなる“岩盤層”は底堅く存在

**商品企画・開発方針**  
 プロ・趣味層向けとハイエンドに集中、大口径レンズで差別化

**収益性重視の販売戦略**  
 製品ミックスの改善、販売政策の見直し等で収益性向上

**固定費構造の最適化**  
 市場縮小を上回るペースで事業運営費を削減、生産拠点集約

**BtoB等の新領域への展開**  
 画像処理、センシング技術等を積極活用

ミラーレス拡大・ハイエンドシフトと構造改革により、売上1,500億円以下でも黒字となる事業へ

## 事業環境認識

FPD装置は当面堅調、半導体装置は厳しい局面が到来

## FPD装置事業

来期まで大型向け需要は堅調、中小型向けはシェア拡大

## 半導体装置事業

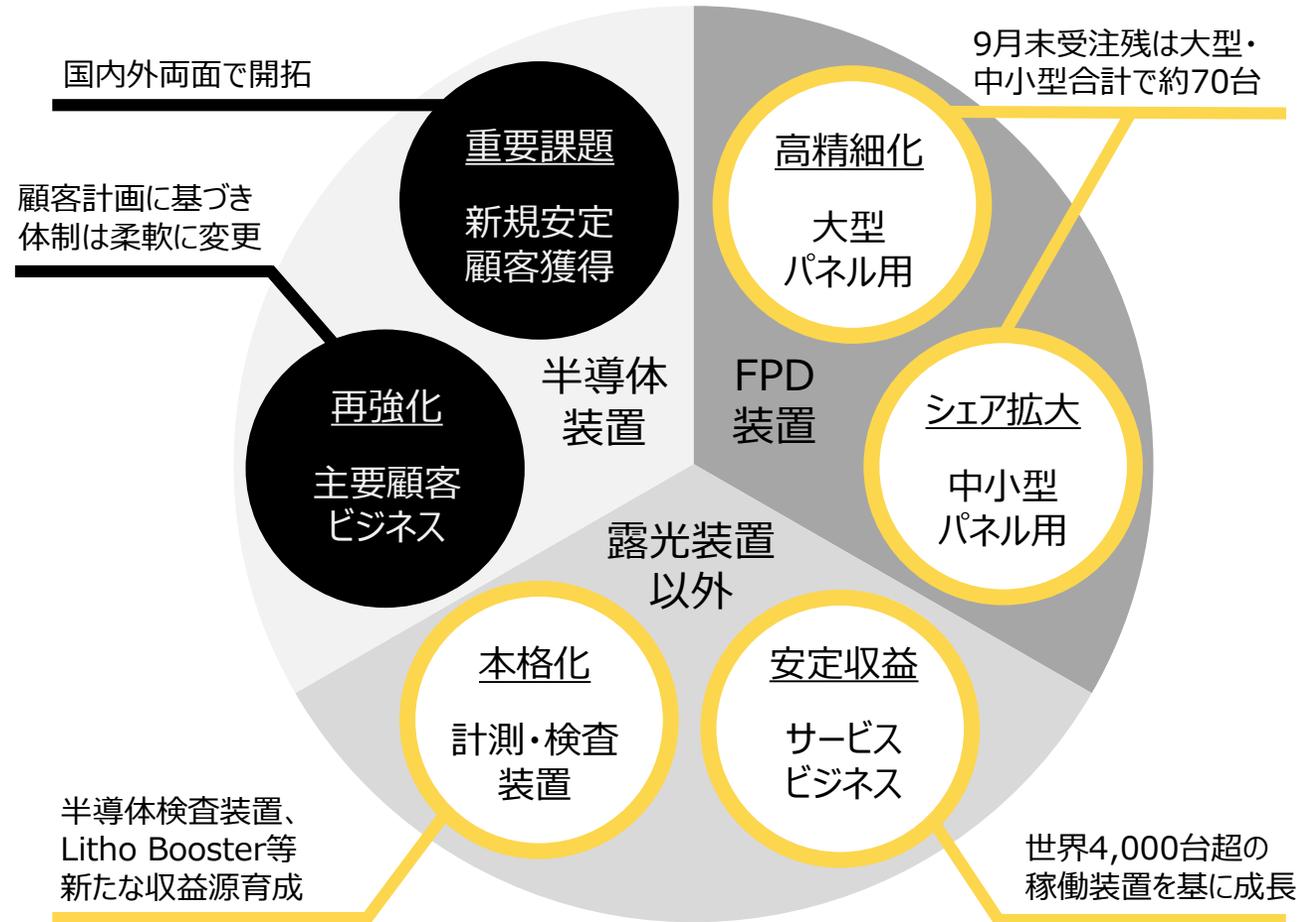
主要顧客動向に適応する為、事業運営は機動的に見直し

## 収益源の多様化

サービスビジネスに加え、  
EUV関連を含む計測・検査機器等周辺分野に展開

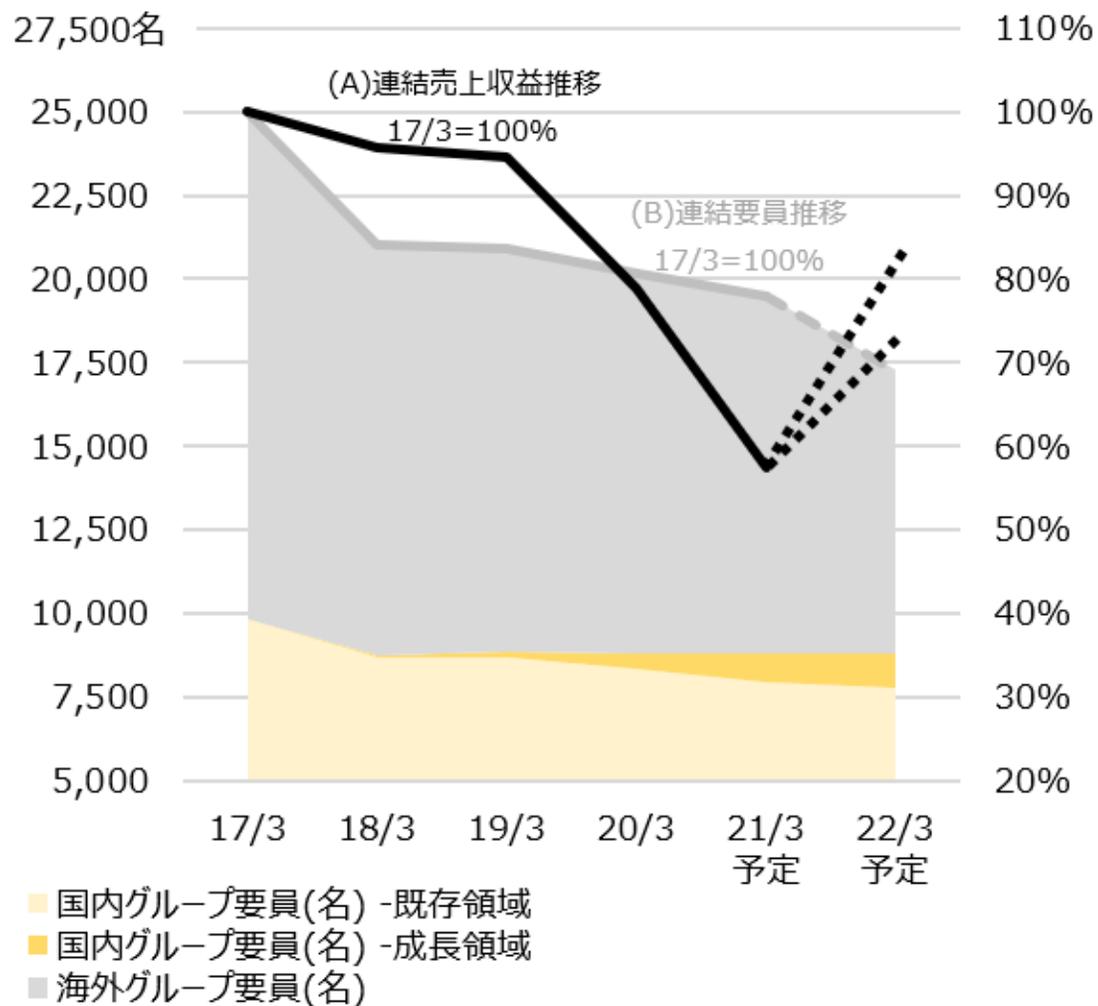
## 安定的な事業基盤の確立

コロナ後も見据えて海外サポートを増強し、現地化を推進



FPD装置事業以外の収益源の多様化を進め、安定して稼ぐ力の強化に努める

# 要員の最適化と成長領域へのリソースシフト



**連結売上推移**  
減収は今期で底を打ち、来期以降は増収へ

**連結要員推移**  
将来の売上規模に見合った体制へ最適化

**海外グループ要員**  
生産体制最適化や販社再編を通じてスリム化

**国内グループ要員**  
現状の規模を維持、成長領域へシフト

売上回復と要員適正化を含むコスト改革を確実に進め、FY21以降の安定的黒字化を目指す

## 持続的成長回帰



成長基盤構築

新たな価値創造に資本・リソースを集中

精機事業安定

ビジネスの裾野を拡げて、収益構造を強靱に

映像事業再建

趣味・プロ層重視、構造改革で市場縮小に対応

コロナ・危機対応

事業の現地化、デジタル化の推進、コスト改革で適応

バランスシート改善

固定資産・棚卸資産等の評価を徹底、低採算資産を整理

財務健全性

成長投資と既存事業再建に適切に対処するべく、流動性は堅持

経営基盤

ステークホルダー・技術・ブランドを中心に据えて、ガバナンス強化を継続

経営基盤と財務健全性をベースに経営課題を着実に改善し、持続的成長を実現する

1. 経営状況報告

2. 2021年3月期 第2四半期決算報告

3. 2021年3月期 通期見通し

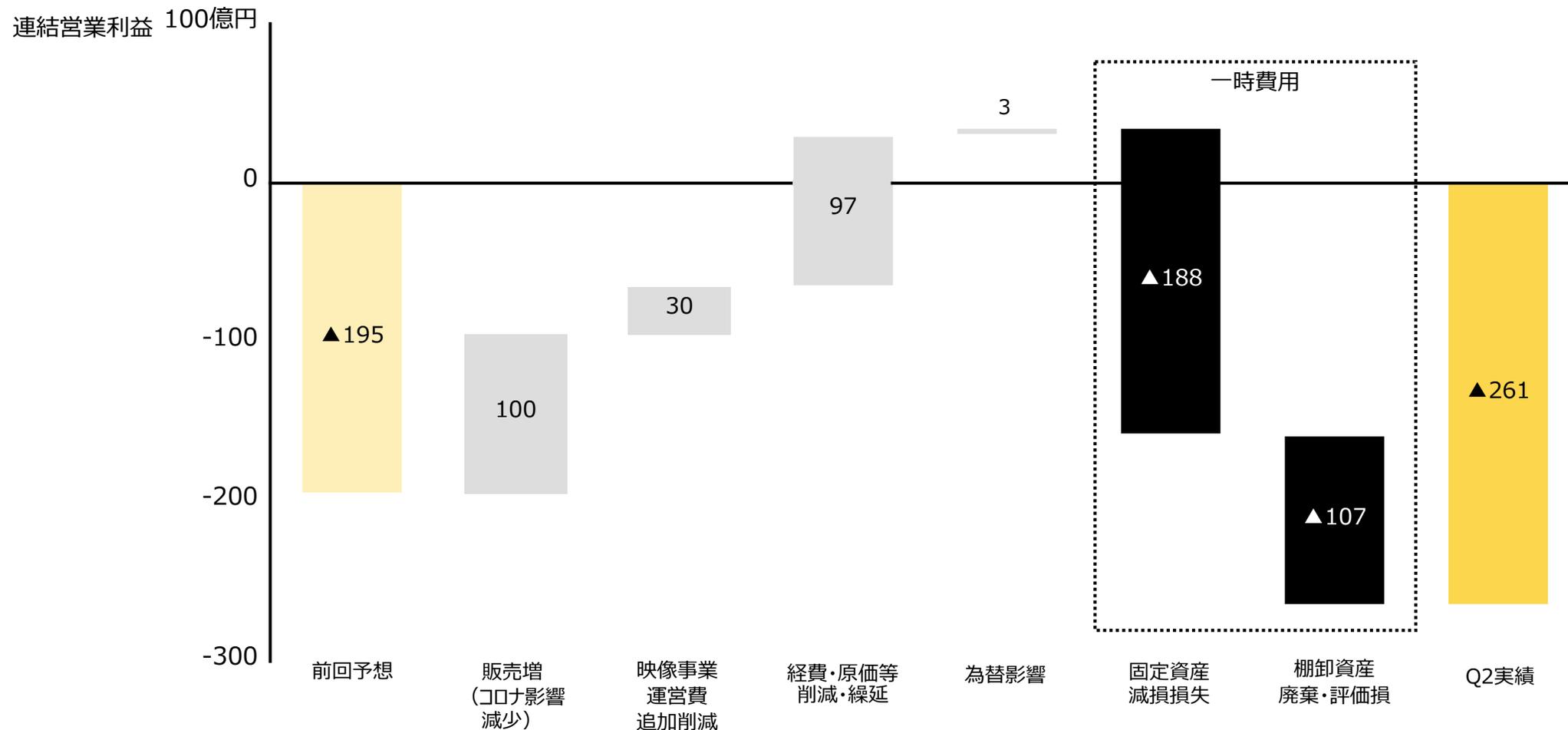
# 2021年3月期 Q2 : 7-9月連結売上収益・損益



単位：億円	20年3月期 Q2実績	21年3月期 Q2実績	前年比
売上収益	1,481	<b>1,109</b>	▲372
営業利益	82	<b>▲261</b>	▲343
営業利益率	5.5%	▲23.5%	
税引前利益	94	<b>▲196</b>	▲290
税引前利益率	6.3%	▲17.7%	
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	81	<b>▲180</b>	▲261
当期利益率	5.5%	▲16.2%	
FCF	45	<b>61</b>	+16
為替：USドル	107円	<b>106円</b>	売上収益への影響 +1
ユーロ	119円	<b>124円</b>	営業利益への影響 +7

FCFは改善、営業利益も一時費用（減損、廃棄・評価損）296億円や構造改革関連費用10億円を除けば45億円の黒字

# 2021年3月期 Q2：7-9月営業利益の変化内訳



Q2は実質黒字に改善する中、将来リスクを軽減する観点から、大規模な減損、廃棄・評価損を実施

注: Q2映像構造改革費用は▲10億円 (上期累計13億円) で概ね計画通り、うち、▲1億円は固定資産減損損失

# 2021年3月期 上期業績のポイント



## 上期実績

- 売上収益 1,756億円
- 営業利益 ▲466億円

## 前年比

- 売上収益 1,154億円減
- 営業利益 641億円減
  - 映像事業 : 市場縮小・コロナ影響に固定資産減損損失156億円が加わり、294億円減
  - 精機事業 : コロナ影響等に棚卸資産廃棄評価損92億円が重なり、320億円減

## 前回予想比

- 売上収益 106億円増
- 営業利益 66億円減
  - 映像事業 : コロナ禍において想定以上に販売が回復、減損損失を除けば82億円改善
  - 精機事業 : FPD据付作業再開が順調に進捗、廃棄評価損を除けば52億円改善
  - ヘルスケア事業 : 販売上振れに経費抑制等が重なり、27億円改善
  - 産業機器・その他 : 固定資産減損32億円除けば23億円改善

注：本資料で使用している数値は、億円未満は切り捨ててあります

# 2021年3月期 上期：連結売上収益・損益



単位：億円	20年3月期 上期実績	前回予想 (8/6)	21年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	2,910	1,650	<b>1,756</b>	▲1,154	+106
営業利益	175	▲400	<b>▲466</b>	▲641	▲66
営業利益率	6.0%	▲24.2%	▲26.5%		
税引前利益	201	▲350	<b>▲388</b>	▲589	▲38
税引前利益率	6.9%	▲21.2%	▲22.1%		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	163	▲250	<b>▲315</b>	▲478	▲65
当期利益率	5.6%	▲15.2%	▲17.9%		
FCF	38	—	<b>▲121</b>	▲159	—
為替：USDドル	109円	106円	<b>107円</b>	▲16	+20
ユーロ	121円	117円	<b>121円</b>	+4	+3
				売上収益への影響	
				営業利益への影響	

米国Berkeley Lights Inc.株式の評価益58億円は税引前利益、当期利益へ反映

# 2021年3月期 上期：セグメント別業績



単位：億円		20年3月期 上期実績	21年3月期 上期実績	前年比
映像事業	売上収益	1,190	<b>644</b>	▲46%
	営業利益	20	<b>▲274</b>	▲294億円
精機事業	売上収益	1,176	<b>638</b>	▲46%
	営業利益	260	<b>▲60</b>	▲320億円
ヘルスケア事業	売上収益	300	<b>257</b>	▲14%
	営業利益	▲12	<b>▲23</b>	▲11億円
産業機器・その他	売上収益	242	<b>217</b>	▲10%
	営業利益	18	<b>▲29</b>	▲47億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—
	営業利益	▲111	<b>▲78</b>	+33億円
連結	売上収益	2,910	<b>1,756</b>	▲40%
	営業利益	175	<b>▲466</b>	▲641億円

各セグメントに配賦されない全社損益は、前年の遊休地売却益38億円と構造改革関連費用▲17億円を除けば、前年比54億円改善

注：各セグメントに配賦されない全社損益には、20年3月期上期に▲17億円、21年3月期上期に4億円のセグメント間取引消去を含む

# 2021年3月期 上期：映像事業



単位：億円	20年3月期 上期実績	前回予想 (8/6)	21年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	1,190	550	644	▲546	+94
営業利益	20	▲200	▲274	▲294	▲74
営業利益率	1.7%	▲36.4%	▲42.5%		
レンズ交換式 デジタルカメラ	80万台	—	38万台	▲42万台	—
交換レンズ	131万本	—	61万本	▲70万本	—
コンパクト デジタルカメラ	50万台	—	12万台	▲38万台	—

- **前年比**：コロナ禍で一眼レフカメラの販売台数が減少する中、タイ生産拠点等の生産設備の減損損失を計上し、減収減益。ミラーレスカメラの販売台数は前年を上回っており、プロ・趣味層向けモデルの売上比率も着実に上昇
- **前回予想比**：固定資産減損損失 ▲156億円の影響で、営業利益は74億円悪化。コロナ禍の市場は想定以上に回復、事業運営費の追加削減等を行い、減損影響を除外した実質的な事業損益は82億円改善

# 2021年3月期 上期：精機事業



単位：億円	20年3月期 上期実績	前回予想 (8/6)	21年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	1,176	650	638	▲538	▲12
営業利益	260	▲20	▲60	▲320	▲40
営業利益率	22.1%	▲3.1%	▲9.4%		
FPD露光装置	18台	—	5台	▲13台	—
半導体露光装置 新品／中古	14/4台	—	6/3台	▲8/▲1台	—

- **前年比**：FPD露光装置は7月から据付を再開、上期中に据付完了出来た装置は5台に留まる。半導体露光装置は主要顧客の投資一巡の影響もあり、販売台数は大幅に減少。減収の中、半導体装置事業において、微細化対応や新規顧客獲得に向けた開発強化用に設備化する装置等の評価損92億円を計上し、事業全体では赤字
- **前回予想比**：収益性の高いFPD装置において、コロナ下での据付作業再開が順調に進捗、下期販売予定装置の一部が前倒して上期販売となった効果もあり、廃棄・評価損の影響を除外した実質的な事業損益は52億円改善

# 2021年3月期 上期：ヘルスケア事業



単位：億円	20年3月期 上期実績	前回予想 (8/6)	21年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	300	220	257	▲43	+37
営業利益	▲12	▲50	▲23	▲11	+27
営業利益率	▲4.0%	▲22.7%	▲8.9%		

- **前年比**：生物顕微鏡、網膜画像診断機器ともに、最大市場である米州でコロナ禍での影響が大きく減収
- **前回予想比**：生物顕微鏡は米州の落ち込みを欧州で補い、ほぼ計画通り。網膜画像診断機器の販売は、米国検眼医向けの上振れや営業力強化の効果が出た欧州の伸びにより、計画上振れ。増収に経費抑制効果が加わり、上期の赤字は半減。Q2実績は営業黒字

# 2021年3月期 上期：産業機器・その他



単位：億円	20年3月期 上期実績	前回予想 (8/6)	21年3月期 上期実績	前年比	前回予想比
売上収益	242	230	217	▲25	▲13
営業利益	18	▲20	▲29	▲47	▲9
営業利益率	7.4%	▲8.7%	▲13.4%		

- **前年比**：産業機器ではコロナ禍で顧客の設備投資抑制等により減収。その他事業において、主に国内生産拠点の映像事業に関連する固定資産の減損損失を32億円計上したこともあり、セグメント全体で赤字
- **前回予想比**：売上収益は産業機器ではほぼ計画通りだが、その他事業では計画未達。経費抑制等により減損を除けば営業利益は23億円改善

1. 経営状況報告

2. 2021年3月期 第2四半期決算報告

3. 2021年3月期 通期見通し

## 売上収益

- **全社見通し 4,300億円**（前回予想から100億円上方修正）
  - 映像事業：上期上振れを反映し、100億円上方修正
  - ヘルスケア事業：上期上振れを反映し、30億円上方修正
  - 産業機器・その他：上期実績を反映、30億円下方修正

## 営業利益

- **全社見通し ▲750億円**（前回予想と同じ）
  - 映像事業：販売・コスト削減の上期上振れ、固定資産減損損失156億円等を踏まえて50億円下方修正
  - 精機事業：棚卸資産廃棄評価損92億円等を踏まえて90億円下方修正
  - ヘルスケア事業：増収により10億円上方修正
  - 産業機器・その他：固定資産減損損失32億円等により、20億円下方修正
  - 各セグメントに配賦されない全社損益：前回リスクバッファー200億円取り崩し等により、150億円上方修正

## 当期利益

- **全社見通し ▲500億円**（前回予想と同じ）

## 株主還元

- **年間配当金20円、中間配当金10円**（前回予想と同じ）

# 2021年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	20年3月期 実績	前回予想 (8/6)	今回予想 (11/5)	前年比	前回予想比
売上収益	5,910	4,200	<b>4,300</b>	▲1,610	+100
営業利益	67	▲750	<b>▲750</b>	▲817	±0
営業利益率	1.1%	▲17.9%	▲17.4%		
税引前利益	118	▲700	<b>▲700</b>	▲818	±0
税引前利益率	2.0%	▲16.7%	▲16.3%		
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	76	▲500	<b>▲500</b>	▲576	±0
当期利益率	1.3%	▲11.9%	▲11.6%		
EPS	19.93円	▲136.19円	<b>▲136.19円</b>	▲156.12円	±0
年間配当	40円	20円	<b>20円</b>	▲20円	±0
為替：USD	109円	106円	<b>106円</b>	売上収益への予想影響 ▲72	+20
ユーロ	121円	116円	<b>118円</b>	営業利益への予想影響 ▲10	+3

注：EPS（基本的1株当たり当期利益）＝当期利益÷期中平均株式数（20年3月期実績は約3.86億株、21年3月期予想は約3.67億株で計算）

# 2021年3月期 通期見通し：8月予想からの主な変化

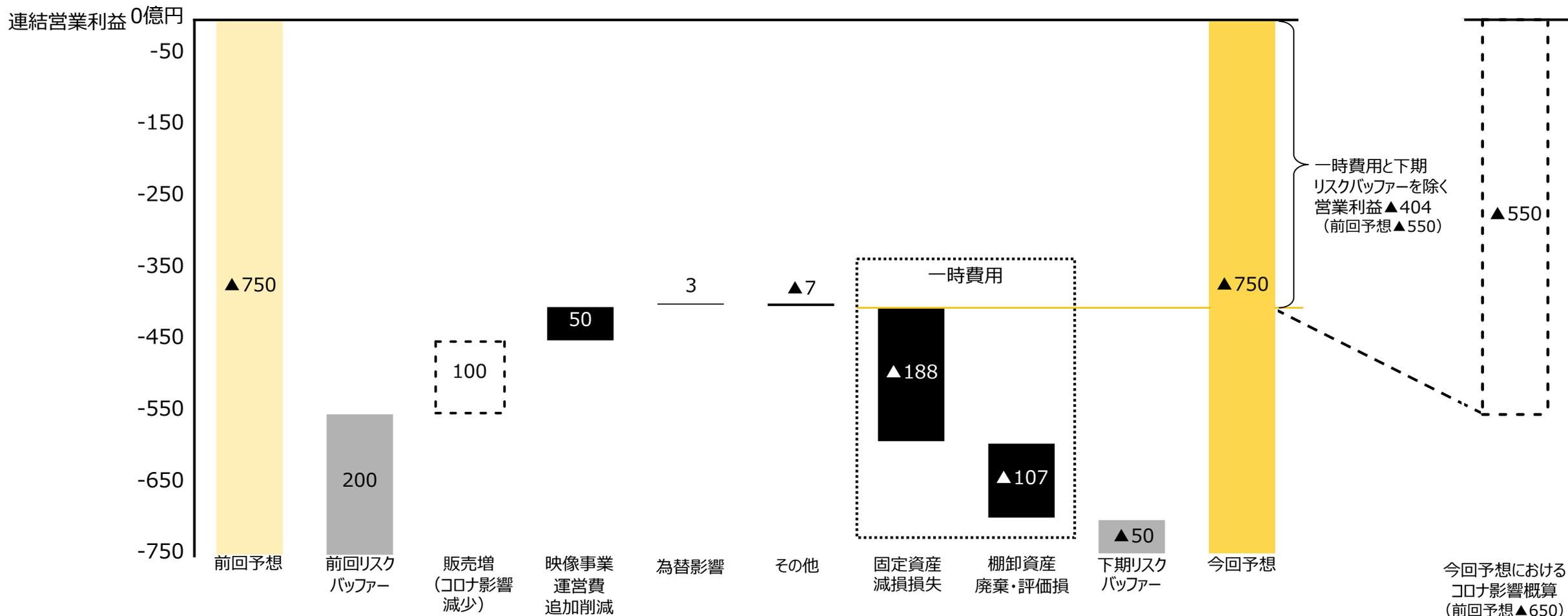


単位：億円		前回予想 (8/6)	映像事業増減	精機事業増減	映像・精機以外	影響額計	今回予想 (11/5)
売上収益	販売増(コロナ影響減)		80	100	20	200	
	販売繰延・為替等		20	▲100	▲20	▲100	
	<b>連結</b>	<b>4,200</b>	<b>100</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>100</b>	<b>4,300</b>
営業利益	販売増(コロナ影響減)		40	50	10	100	
	事業運営費追加削減		50	0	0	50	
	固定資産減損損失		▲156	0	▲32	▲188	
	棚卸資産廃棄・評価損		▲4	▲92	▲11	▲107	
	その他・リスクバッファ減		20	▲48	173	145	
<b>連結</b>	<b>▲750</b>	<b>▲50</b>	<b>▲90</b>	<b>140</b>	<b>0</b>	<b>▲750</b>	

コロナ影響減（営業利益）：映像事業 40億円 コロナ禍において、既存製品の販売が前回予想より堅調に推移  
 精機事業 50億円 FPD据付作業再開は順調に進捗、露光装置4台の販売を翌期から前倒し  
 映像・精機以外 10億円 ヘルスケア事業の販売が上振れ  
 事業運営費追加削減：映像事業 50億円 今期削減は150→200億円、累計総額は600→630億円へ増額  
 固定資産減損損失：映像事業 ▲156億円 タイ生産拠点を始め、映像事業に関連する国内外の生産設備を減損処理  
 映像以外 ▲32億円 主に国内生産拠点の映像事業に関連する設備を減損処理  
 棚卸資産廃棄評価損：精機事業 ▲92億円 微細化対応や新規顧客獲得に向けて開発強化用設備に転用する在庫を評価減

注：上記各要因に限り、1桁目を四捨五入して表示、映像事業の固定資産減損損失156億円には構造改革関連費用1億円を含む（映像事業の構造改革関連費用は上期累計で13億円）

# 2021年3月期 通期見通し：営業利益の変化内訳



来期の全事業黒字化に向けて課題に積極対処、一時費用等を除く本業の営業利益は前回予想より改善

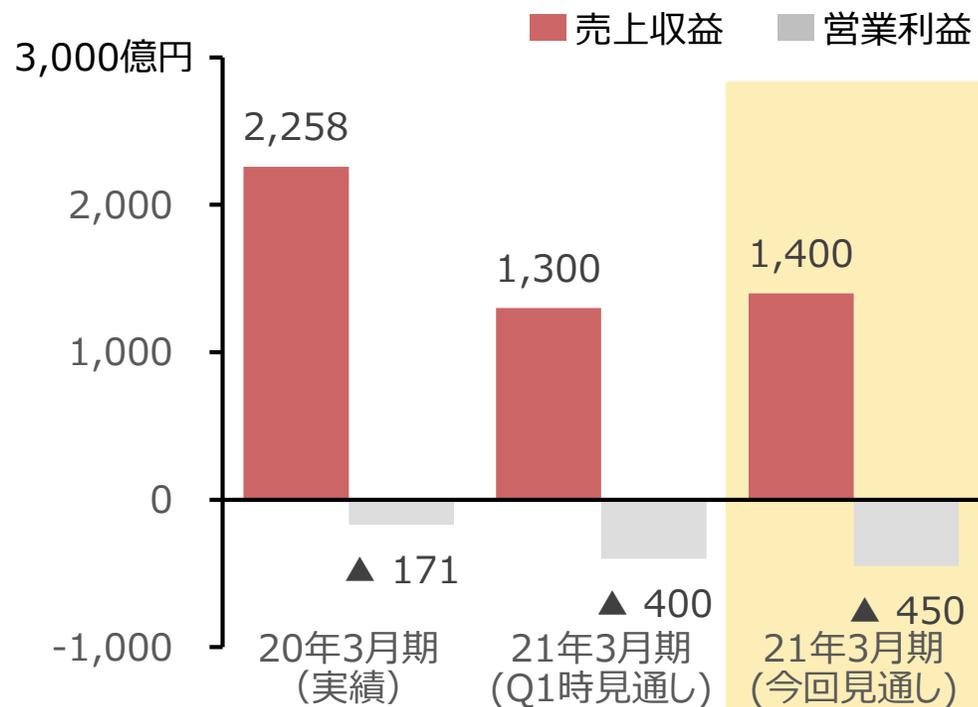
注:一時費用はQ2で計上した固定資産減損損失188億円と棚卸廃棄・評価損の合計296億円を指す

# 2021年3月期 通期見通し：セグメント別業績



単位：億円		20年3月期 実績	前回予想 (8/6)	今回予想 (11/5)	前年比	前回予想比
映像事業	売上収益	2,258	1,300	<b>1,400</b>	▲38.0%	+7.7%
	営業利益	▲171 (▲144)	▲400 (▲350)	▲450 (▲400)	▲279億円	▲50億円
精機事業	売上収益	2,450	1,750	<b>1,750</b>	▲28.6%	±0%
	営業利益	480 (480)	100 (100)	10 (10)	▲470億円	▲90億円
ヘルスケア事業	売上収益	620	570	<b>600</b>	▲3.2%	+5.3%
	営業利益	▲24 (▲24)	▲50 (▲50)	▲40 (▲40)	▲16億円	+10億円
産業機器・その他	売上収益	580	580	<b>550</b>	▲5.2%	▲5.2%
	営業利益	18 (18)	0 (0)	▲20 (▲20)	▲38億円	▲20億円
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—
	営業利益	▲236 (▲219)	▲400 (▲400)	▲250 (▲250)	▲14億円	+150億円
連結	売上収益	5,910	4,200	<b>4,300</b>	▲27.2%	+2.4%
	営業利益	67 (112)	▲750 (▲700)	▲750 (▲700)	▲817億円	±0億円

注：営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値



## レンズ交換式デジタルカメラ (万台)

市場規模	792	480	500
ニコン	162	80	85

## 交換レンズ (万本)

市場規模	1,337	800	830
ニコン	265	130	140

## コンパクトデジタルカメラ (万台)

市場規模	619	290	290
ニコン	84	25	25

## ● 売上収益：前年比858億円減収

- 市場縮小に加え、コロナ影響により販売台数は大幅に減少  
上期実績を反映し、レンズ交換式カメラと交換レンズの販売台数をそれぞれ前回予想比5万台、10万本上方修正し、売上収益は100億円上方修正。下期の販売台数想定は変わらず
- 今期はプロ・趣味層向けフルサイズミラーレスカメラを3モデル追加投入  
ミラーレスカメラ用レンズラインアップは7本追加して計18本へ拡充

## ● 営業利益：前年比279億円減益

- 前回比、固定資産減損156億円計上するが、増収と事業運営費追加削減効果を踏まえて、50億円の下方修正にとどめる
- 中計期間中の事業運営費削減は30億円増額して630億円  
事業運営費は前期250億円以上削減、今期は当初計画に対し、50億円増額・前倒しとなる200億円を削減予定
- 構造改革関連費用は前期27億円に対し、今期計画は約50億円

## 市場環境の前提

市場縮小は継続(A)

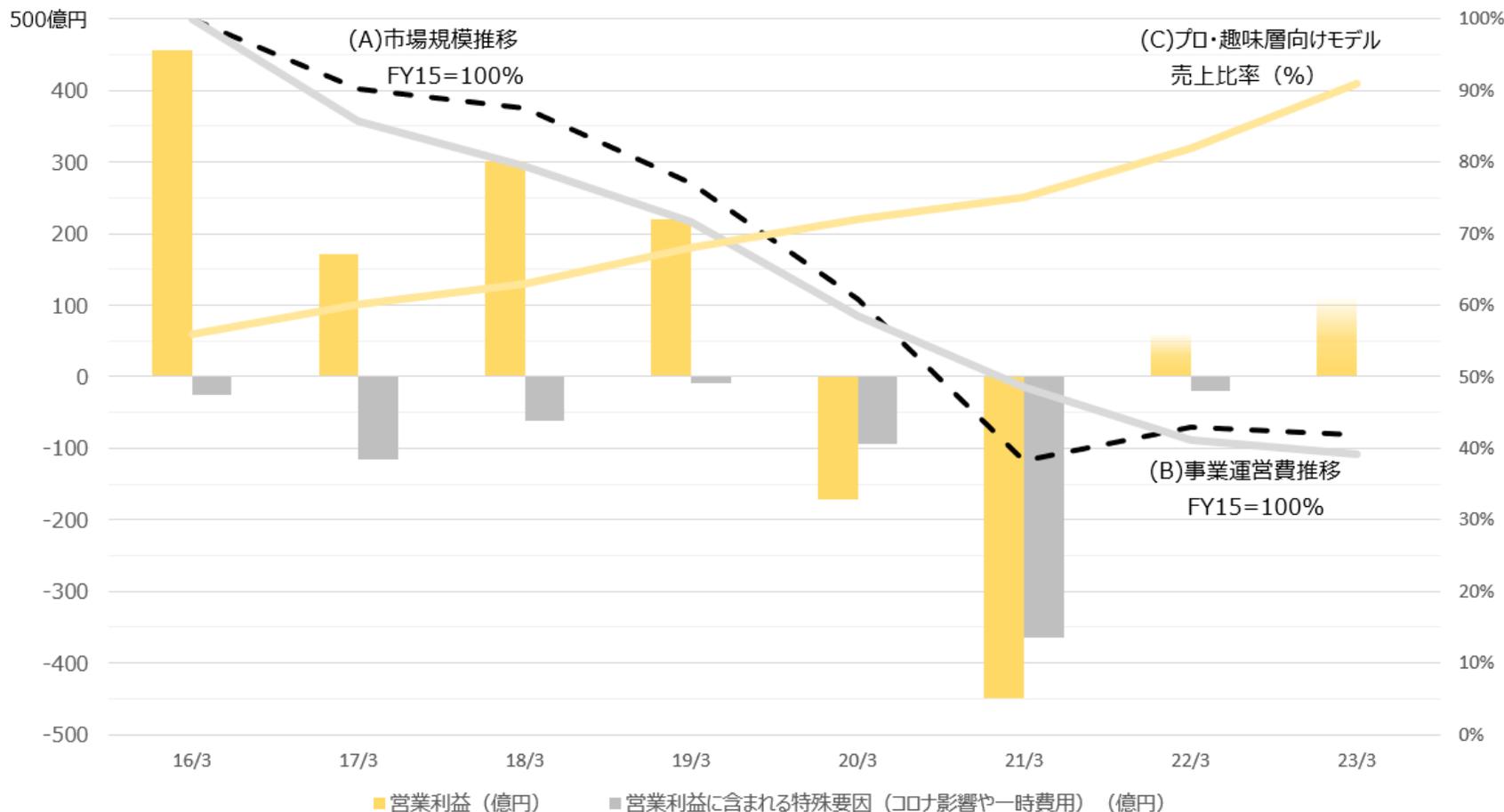
## 固定費構造の最適化

市場縮小を上回るペースで  
事業運営費を630億円削減(B)

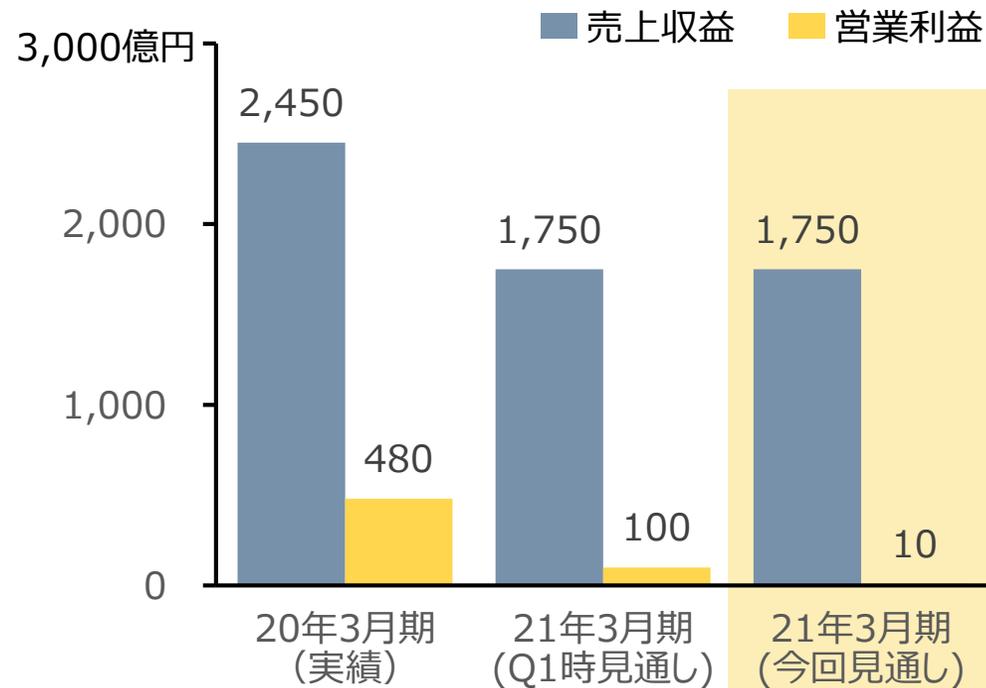
生産拠点の集約・要員適正化・  
設備の減損処理等で生産性改善、  
損益分岐点を大幅に引き下げ

## 売上の質的向上

商品企画・開発・販売において  
顧客はプロ・趣味層に集中(C)



事業構造の強化と販売・商品ミックスの転換により、売上減少下で黒字を確保し続ける体制へ



## ● 売上収益：前年比700億円減収

- FPD：中小型パネル用の設備投資は回復基調、大型パネル用の設備投資は堅調に推移
- FPD：2月から中断していた装置の据付は7月から一部再開据付作業に制約がある状況に変わりはないが、据付作業の前倒しを進め、前回比、販売台数は4台増
- 半導体：主要顧客の投資一巡に加え、一部顧客でコロナ影響による装置納入や受注遅延もあり、装置販売台数は大幅減顧客都合により、販売台数は前回比2台減（来期へ繰延）

## ● 営業利益：前年比470億円減益

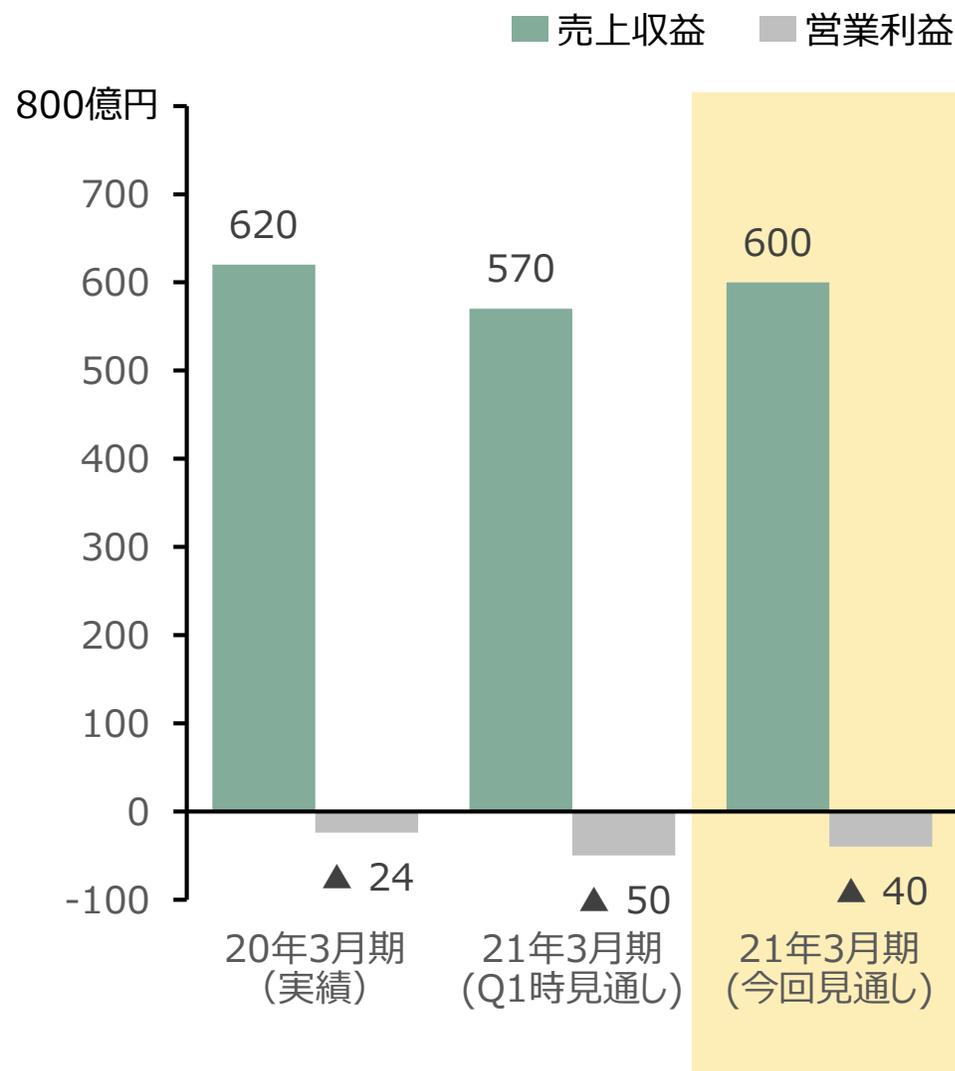
- FPD・半導体の減収影響に加え、成長領域の研究開発投資を大幅に増やしており、減益幅が拡大
- 前回比、廃棄・評価損92億円計上を踏まえ、90億円下方修正

### FPD露光装置販売台数（台）

市場規模 (CY19/20)	90	55	55
ニコン	27	18	22

### 半導体露光装置販売台数（新品／中古、台）

市場規模 (CY19/20)	280	290	290
ニコン	34/11	19/10	17/10

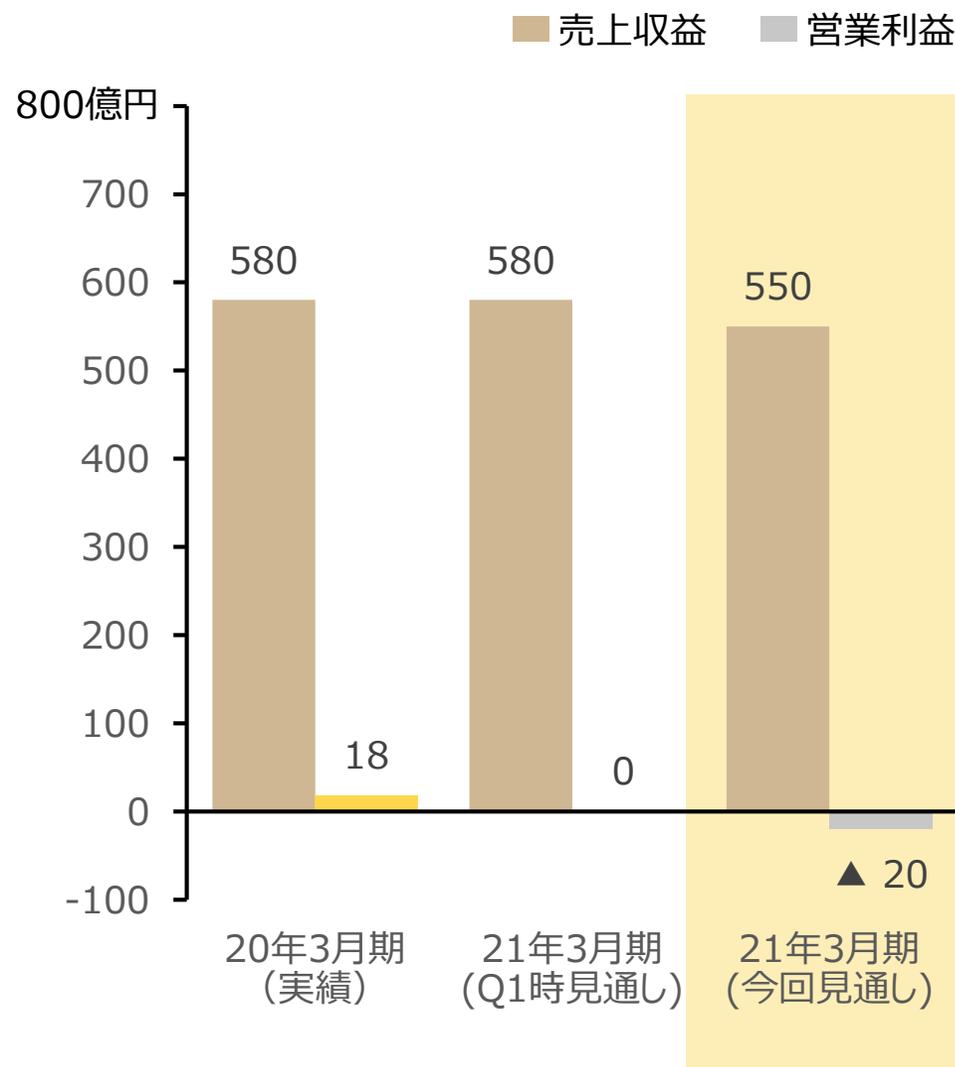


## ● 売上収益：前年比20億円減収

- 生物顕微鏡・網膜画像診断機器ともに受注活動再開により、下期は回復を見込むが、上期の減収影響が大きい。前回比、売上収益は上期の上振れを反映し30億円上方修正
- 細胞受託生産は複数のプロジェクトが順調に進展  
来期は生産本格化により、業績貢献開始

## ● 営業利益：前年比16億円減益

- 前年比、減収影響により赤字幅は拡大  
前回比、増収効果で10億円赤字幅縮小
- コロナ影響により、通期黒字化は一年遅れ、来期達成の計画



## ● 売上収益：前年比30億円減収

- 産業機器事業は下期の受注回復を見込むが、顧客の電子部品関連、自動車関連の設備投資の回復は遅く、大幅減収
- その他事業では、DMG森精機との業務提携やVelodyne社とのlidarセンサー協業、コンポーネントビジネスなどでデジタルソリューションズ事業の売上は拡大が続くが、セグメント全体では上期実績を反映し、前回比30億円下方修正

## ● 営業利益：前年比38億円減益

- 主に国内生産拠点で映像事業関連の設備減損32億円を計上
- 産業機器・その他ともに経費抑制を進め、前回比、20億円の下方修正にとめる



# 参考資料

# 2021年3月期 通期見通し：連結売上収益・損益



単位：億円	18年3月期	19年3月期	20年3月期			21年3月期見通し		
	通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上収益	7,170	7,086	2,910	3,000	5,910	1,756	2,544	4,300
営業利益	562	826	175	▲108	67	▲466	▲284	▲750
営業利益率	7.8%	11.7%	6.0%	▲3.6%	1.1%	▲26.5%	▲11.2%	▲17.4%
税引前利益	562	879	201	▲83	118	▲388	▲312	▲700
税引前利益率	7.8%	12.4%	6.9%	▲2.8%	2.0%	▲22.1%	▲12.3%	▲16.3%
当期利益 (親会社の所有者に帰属)	347	665	163	▲87	76	▲315	▲185	▲500
当期利益率	4.8%	9.4%	5.6%	▲2.9%	1.3%	▲17.9%	▲7.3%	▲11.6%
EPS	87.76円	167.86円	19.93円			▲136.19円		
年間配当	36円	60円	40円			20円		
ROE	6.3%	11.2%	1.3%			▲10%		
FCF	902	435	▲48			▲121	未定	未定
為替：USドル	111円	111円	109円	109円	109円	107円	105円	106円
ユーロ	130円	128円	121円	120円	121円	121円	115円	118円

注：19年3月期からは、従来販売管理費として計上していた販売促進費の一部を売上収益から控除。19年3月期の売上収益は83億円の控除後の金額

# 2021年3月期 通期見通し：セグメント別業績



単位：億円		18年3月期	19年3月期	20年3月期			21年3月期見通し		
		通期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
映像事業	売上収益	3,607	2,961	1,190	1,068	2,258	644	756	1,400
	営業利益	302 (360)	220 (226)	20 (22)	▲191 (▲166)	▲171 (▲144)	▲274 (▲261)	▲176 (▲139)	▲450 (▲400)
精機事業	売上収益	2,263	2,745	1,176	1,274	2,450	638	1,112	1,750
	営業利益	533 (533)	817 (817)	260 (260)	220 (220)	480 (480)	▲60 (▲60)	70 (70)	10 (10)
ヘルスケア事業	売上収益	568	654	300	320	620	257	343	600
	営業利益	▲32 (▲32)	▲19 (▲19)	▲12 (▲12)	▲12 (▲12)	▲24 (▲24)	▲23 (▲23)	▲17 (▲17)	▲40 (▲40)
産業機器・その他	売上収益	732	725	242	338	580	217	333	550
	営業利益	50 (78)	69 (75)	18 (18)	0 (0)	18 (18)	▲29 (▲29)	9 (9)	▲20 (▲20)
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲291 (▲291)	▲261 (▲256)	▲111 (▲94)	▲125 (▲125)	▲236 (▲219)	▲78 (▲78)	▲172 (▲172)	▲250 (▲250)
連結	売上収益	7,170	7,086	2,910	3,000	5,910	1,756	2,544	4,300
	営業利益	562 (649)	826 (844)	175 (194)	▲108 (▲82)	67 (112)	▲466 (▲453)	▲284 (▲247)	▲750 (▲700)

注：19年3月期からは、従来販売管理費として計上していた販売促進費の一部を売上収益から控除。19年3月期の売上収益は83億円の控除後の金額

営業利益の（ ）内数値は、構造改革関連費用を除いた値

産業機器・その他に属する半導体関連製品事業を精機事業に移管。2020年3月期への遡及適用の結果、産業機器・その他から精機事業へ売上収益53億円、営業利益13億円を組替

# 2021年3月期 Q2: セグメント別業績



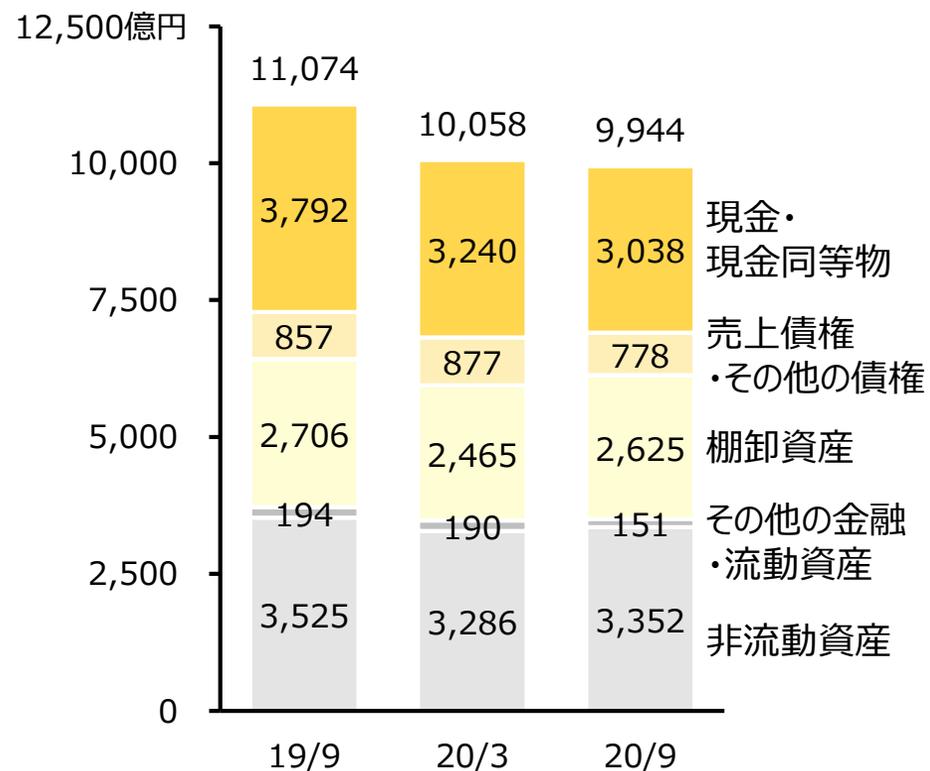
単位：億円		20年3月期				21年3月期	
		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
映像事業	売上収益	673	517	700	368	251	393
	営業利益	35 (35)	▲15 (▲13)	▲8 (▲2)	▲183 (▲164)	▲81 (▲78)	▲193 (▲183)
精機事業	売上収益	518	658	526	748	196	442
	営業利益	103 (103)	157 (157)	107 (107)	113 (113)	▲51 (▲51)	▲9 (▲9)
ヘルスケア事業	売上収益	129	171	165	155	103	154
	営業利益	▲19 (▲19)	7 (7)	▲4 (▲4)	▲8 (▲8)	▲24 (▲24)	1 (1)
産業機器・その他	売上収益	108	134	143	195	95	122
	営業利益	2 (2)	16 (16)	9 (9)	▲9 (▲9)	▲4 (▲4)	▲25 (▲25)
各セグメントに配賦 されない全社損益	売上収益	—	—	—	—	—	—
	営業利益	▲29 (▲29)	▲82 (▲65)	▲63 (▲63)	▲62 (▲62)	▲44 (▲44)	▲34 (▲34)
連結	売上収益	1,429	1,481	1,534	1,466	647	1,109
	営業利益	93 (93)	82 (101)	40 (47)	▲148 (▲129)	▲205 (▲202)	▲261 (▲251)

注:営業利益の( )内数値は、構造改革関連費用を除いた値

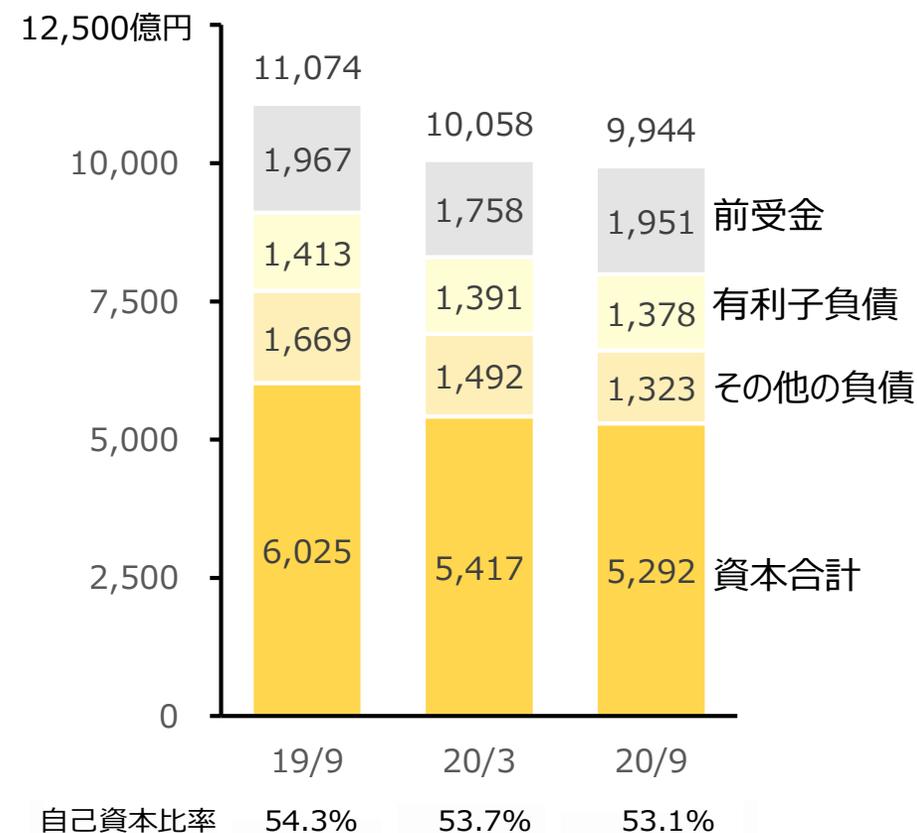
# 2021年3月期 上期：財政状態計算書



## 資産



## 負債・資本

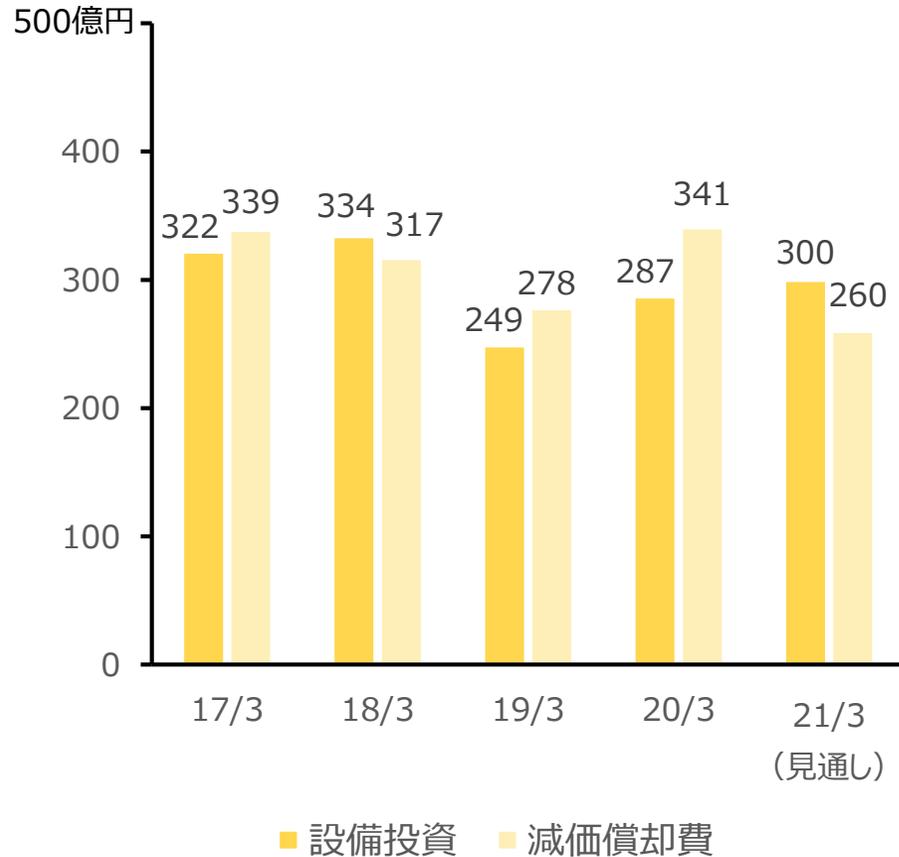


注：自己資本比率 = 親会社所有者帰属持分比率。現金・現金同等物には3ヶ月超の定期預金残高を含めず表示

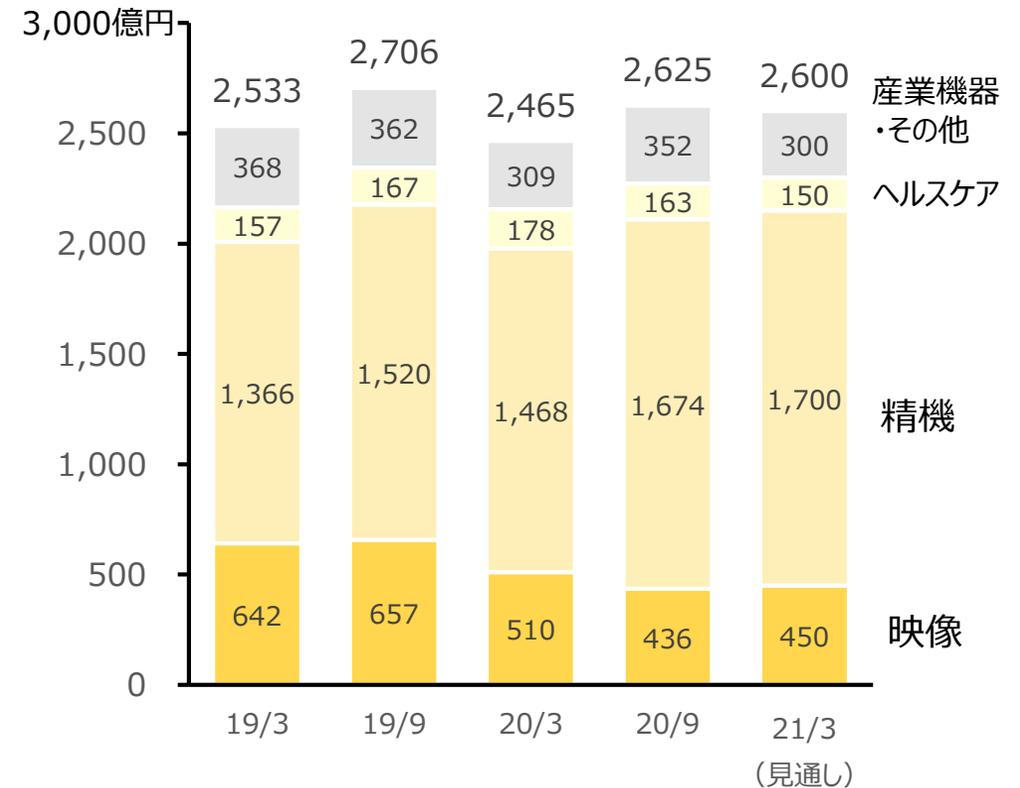
# 2021年3月期 通期見通し：設備投資・減価償却費・棚卸資産



## 設備投資・減価償却費



## 棚卸資産



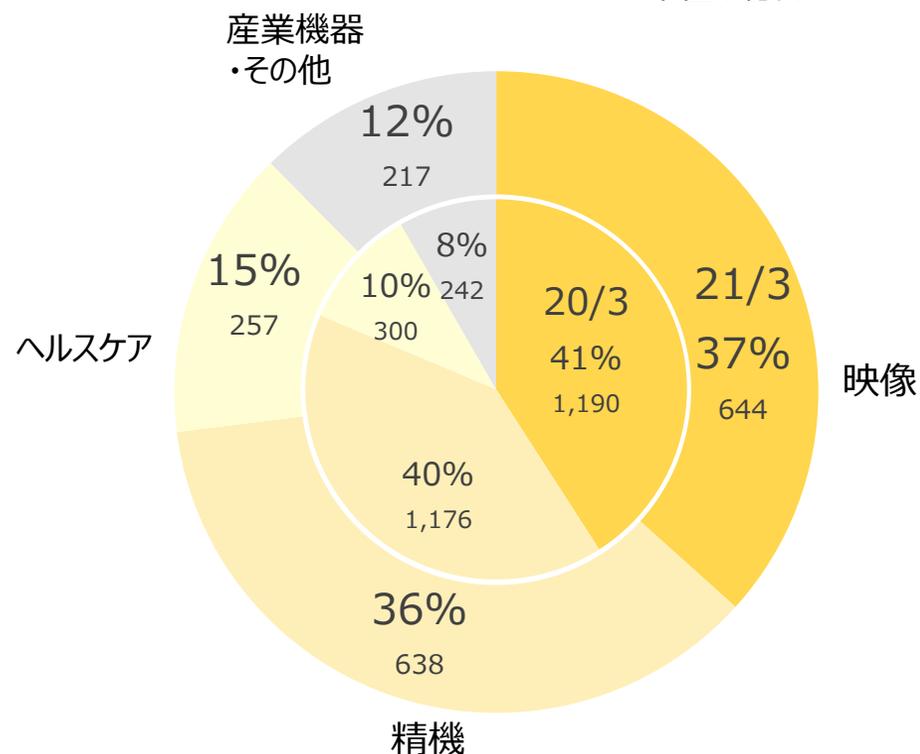
注：「設備投資」 2020年3月期にはIFRS第16号適用によりリース資産約40億円を含めて表示

「減価償却費」 2018年3月期以降には仕掛開発費の償却も含めて表示、2020年3月期には設備投資と同様にリース資産約70億円を含めて表示

「棚卸資産」 産業機器・その他に属していた半導体関連製品事業を精機事業に移管し、2020年3月期への遡及適用した結果、2019年9月末で28億円、2020年3月末で26億円の残高を組替

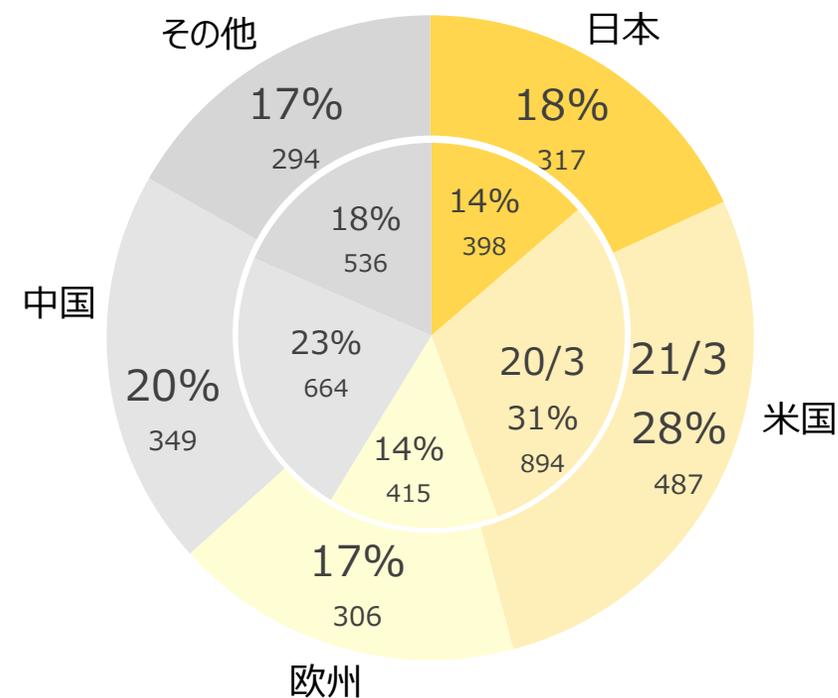
## セグメント別内訳

単位：億円



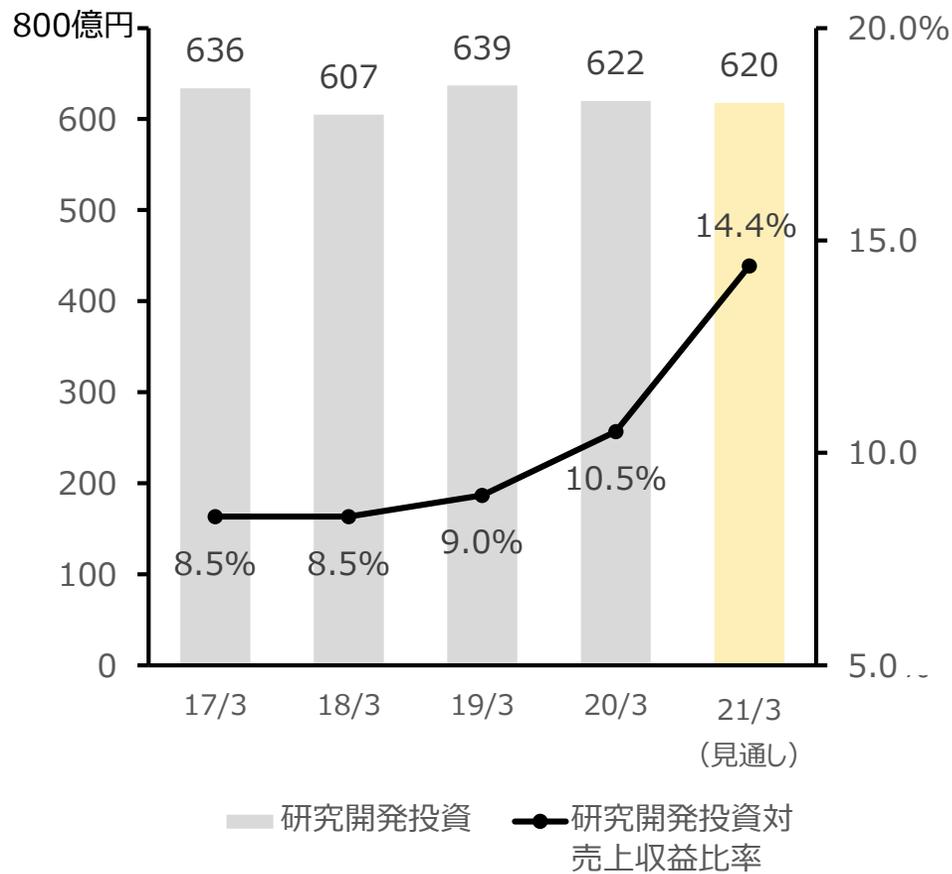
## 地域別内訳

単位：億円



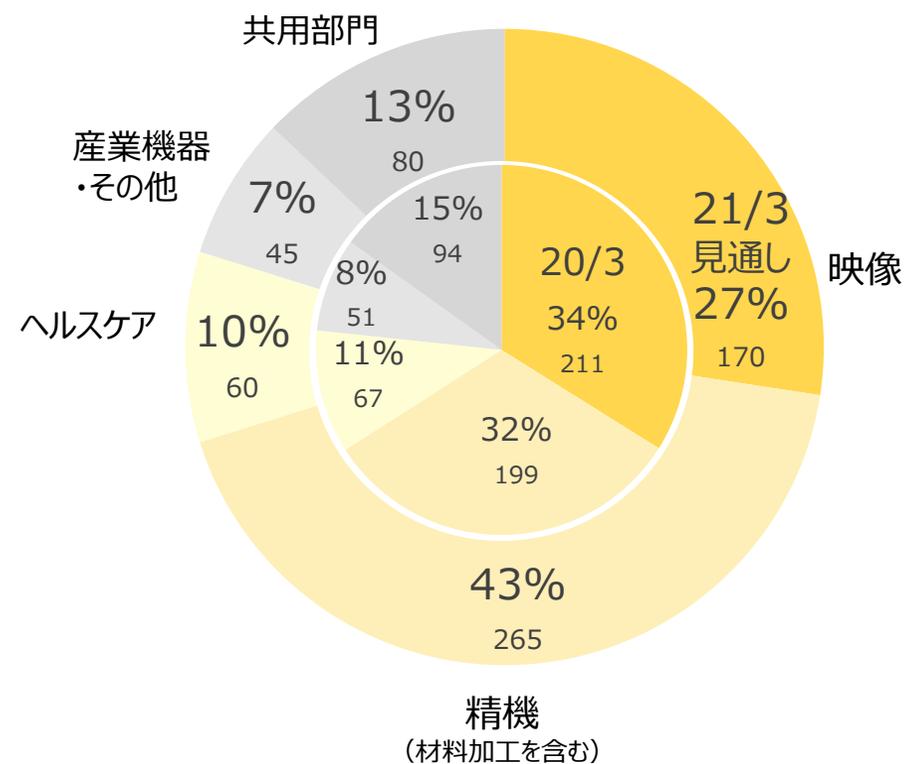
注：外円は「2021年3月期上期売上収益1,756億円」の内訳、内円は「2020年3月期上期売上収益2,910億円」の内訳を表示

## 研究開発投資



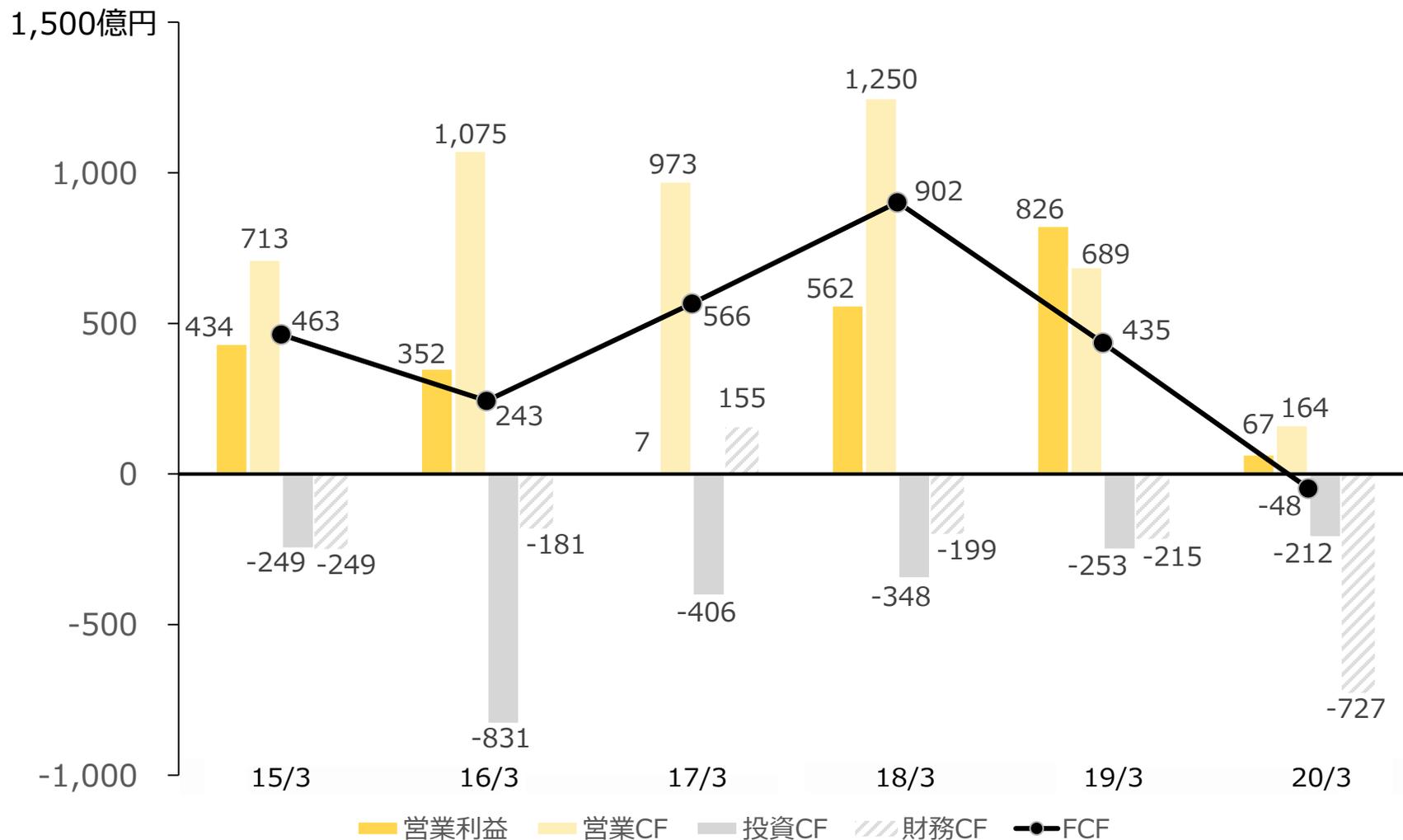
## 研究開発投資内訳

単位：億円



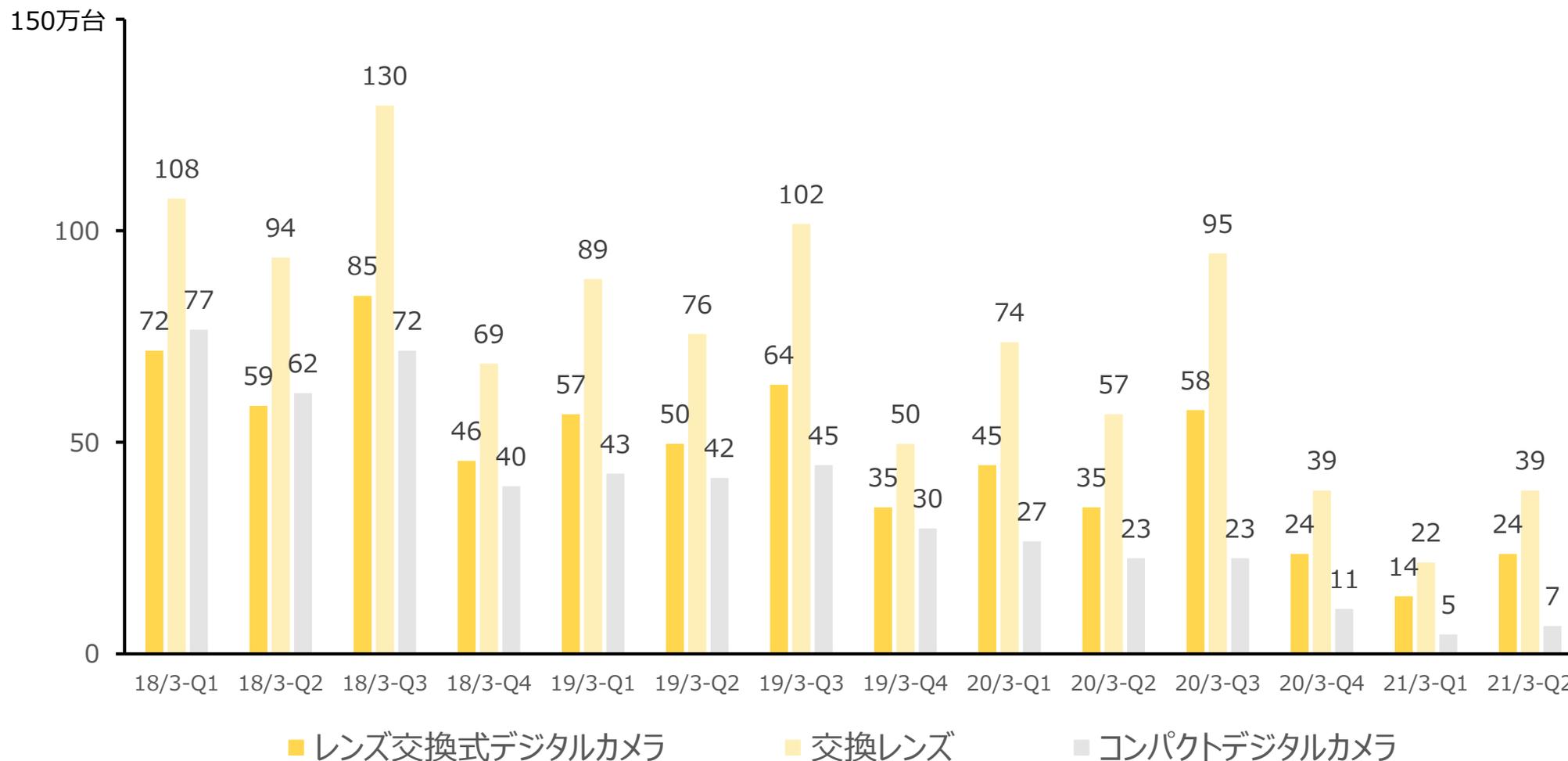
注：「研究開発投資」には、2018年3月期以降に行っている開発投資の一部資産化も含めて表示

# キャッシュフロー推移



注: FCF (フリーキャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF、2015年3月期以前は日本基準、2016年3月期以降は国際会計基準 (IFRS) で表示  
 FCF + 財務CF + 現金・現金同等物に係る換算差額 = 現金・現預金同等物期末残高増減

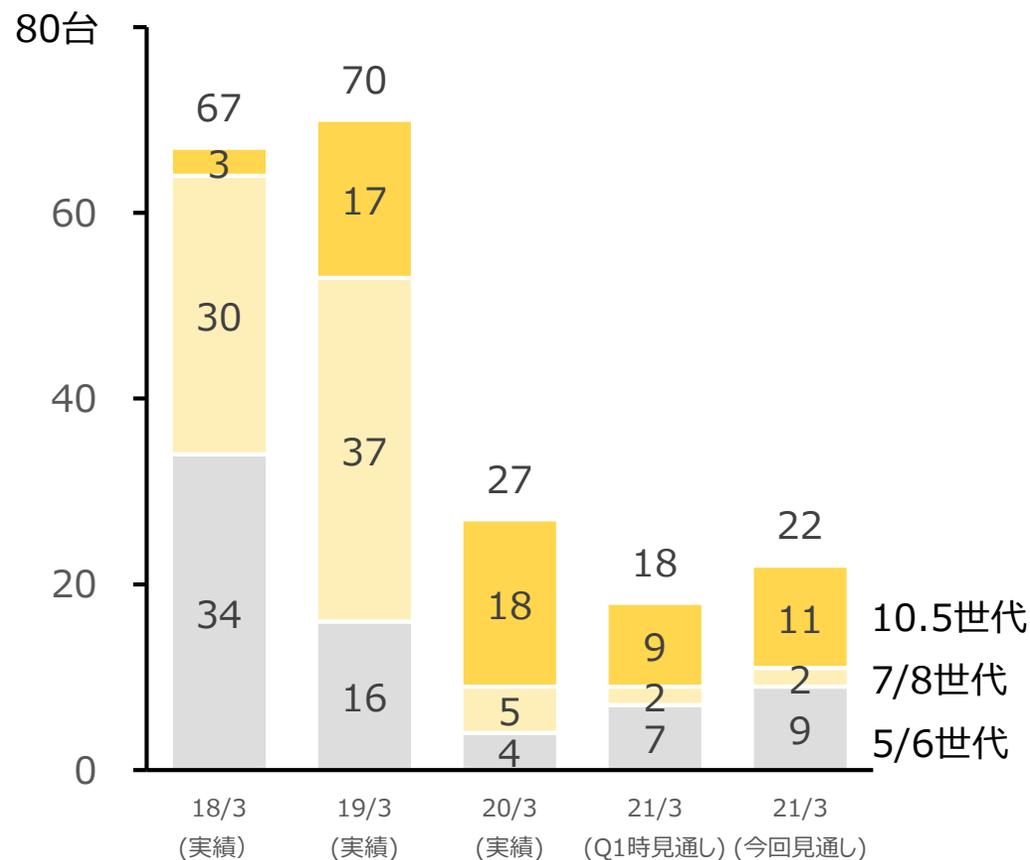
## 製品カテゴリー別内訳



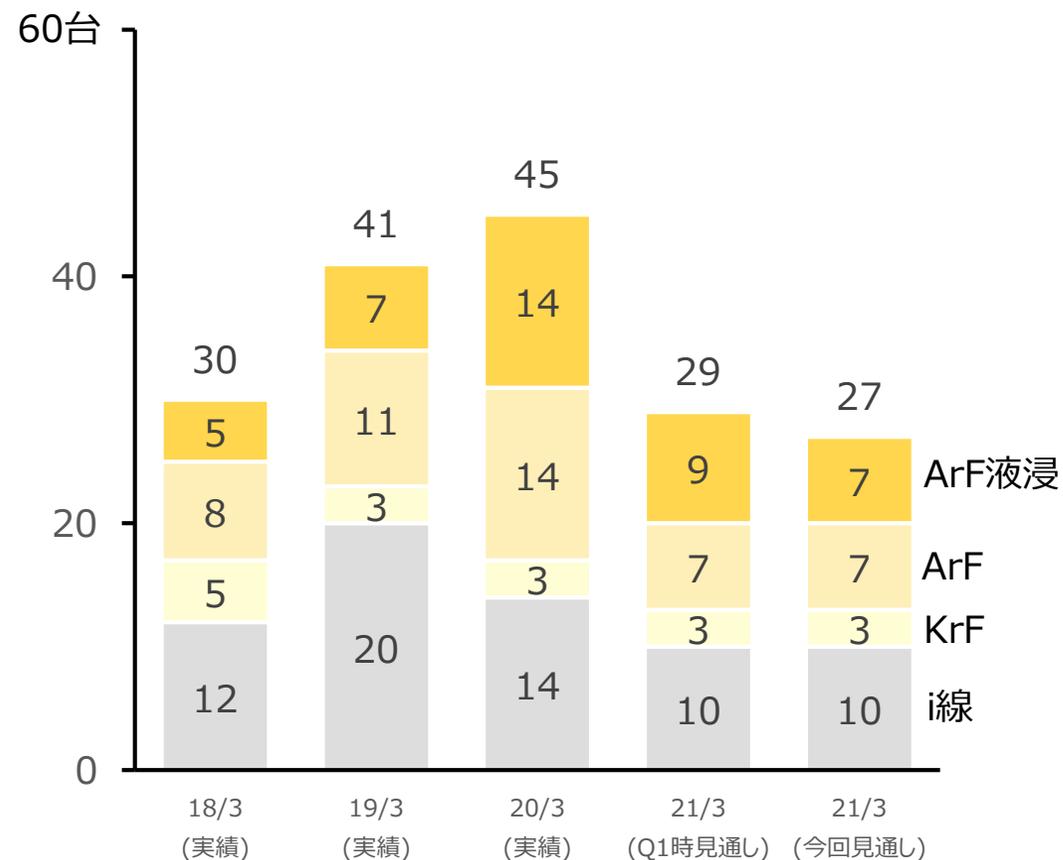
# 2021年3月期 通期見通し：精機事業 販売台数



## FPD露光装置世代別内訳

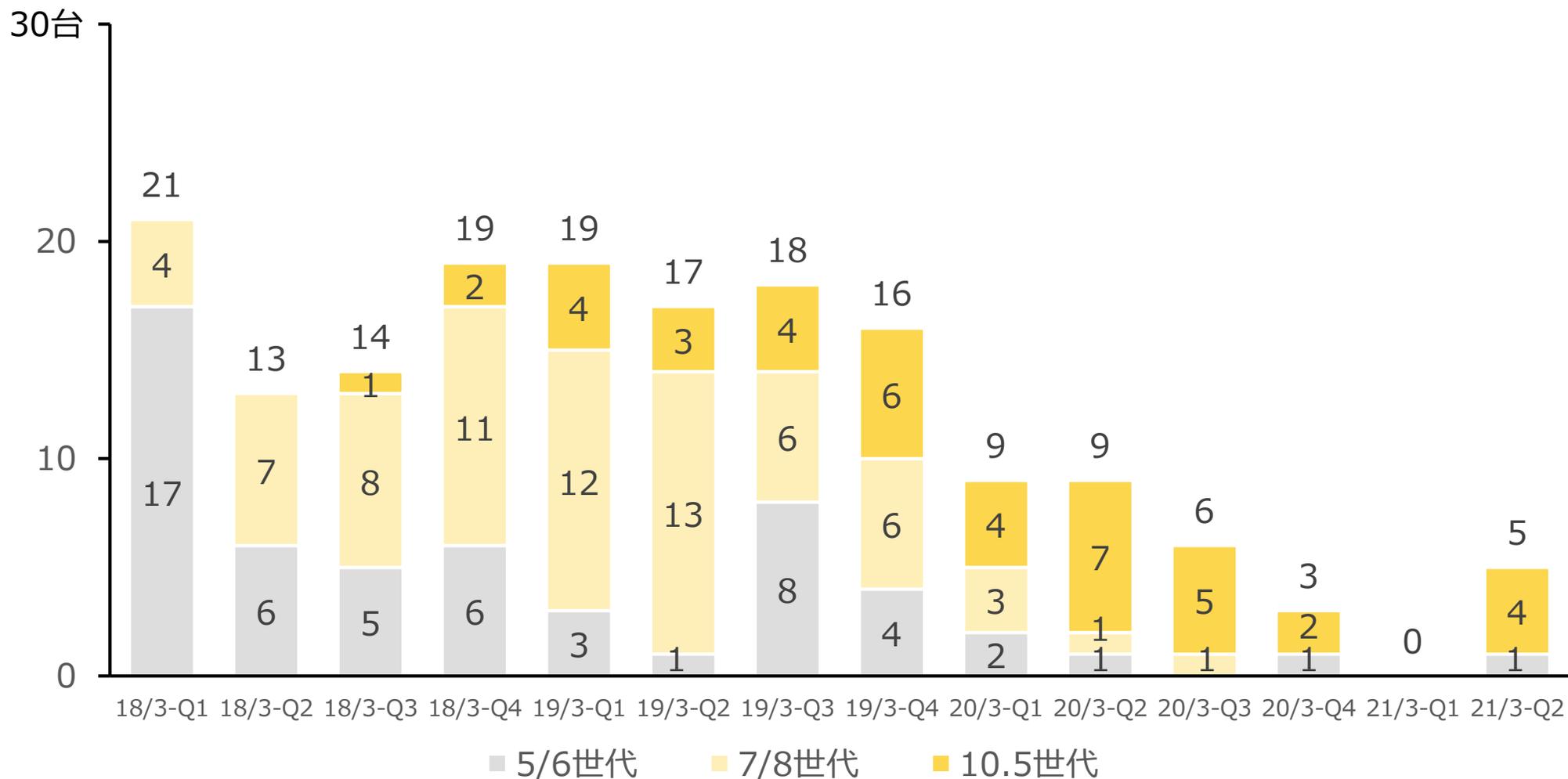


## 半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)

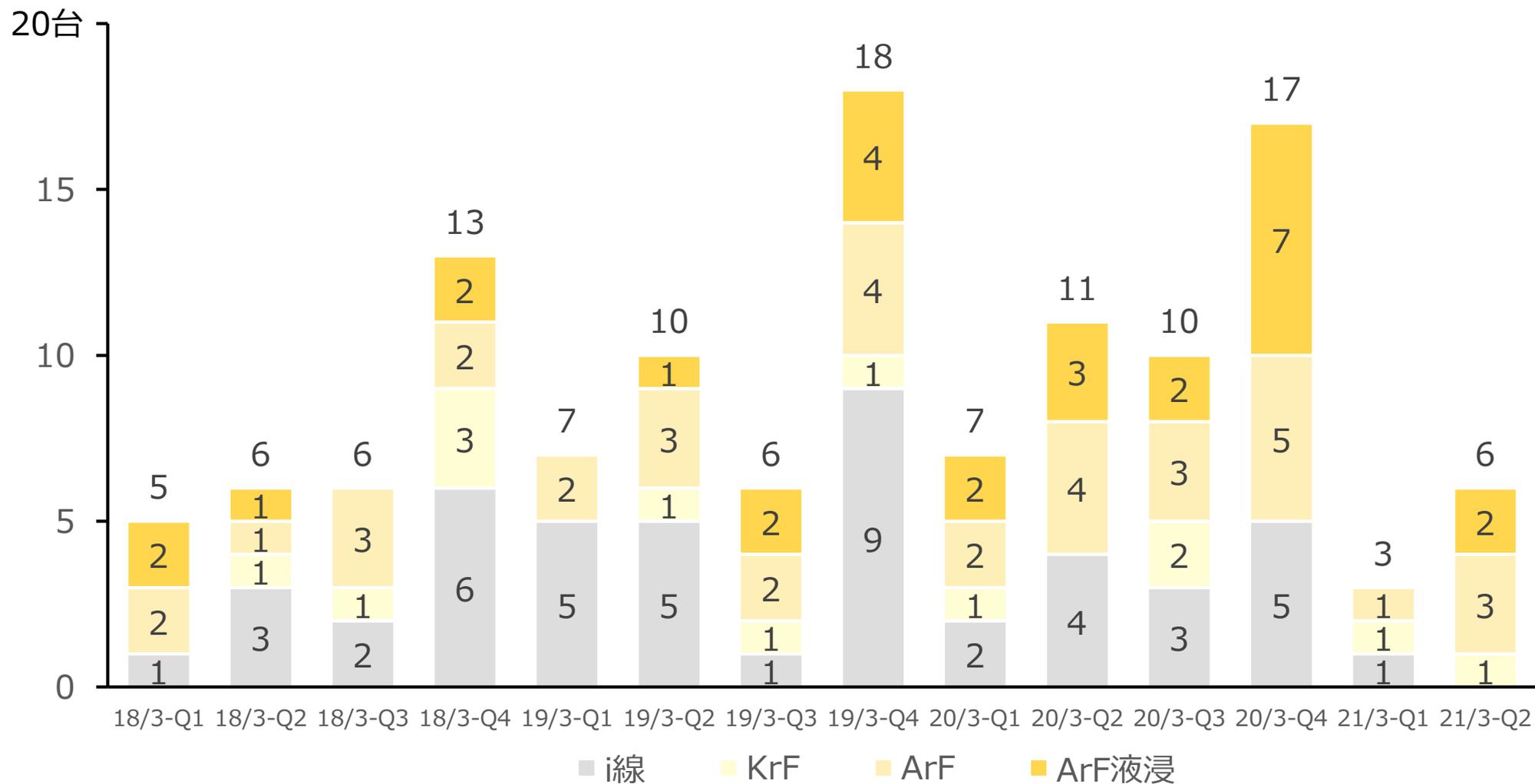


注：半導体露光装置の新品の台数は、2018年3月期は17台、2019年3月期は21台、2020年3月期は34台、2021年3月期は17台（予定）

## FPD露光装置世代別内訳



## 半導体露光装置光源別内訳 (中古含む)



# 2021年3月期 通期見通し：為替の影響



	為替レート	1円の変動による影響額	
	21年3月期 下期前提	売上収益 下期	営業利益 下期
USドル	105円	約10億円	約1億円
ユーロ	115円	約3億円	約2億円

注：上記は新興国通貨がUSドル、ユーロに連動することを想定

- 本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、今後様々な要因の変化によって、実際の業績は記述されている内容と大きく異なる場合があることをご承知おきください

